

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170400881), 法人名 (有限会社 ユースフル), 事業所名 (グループホーム 星の家 2階織姫), 所在地 (札幌市手稲区稲穂1条7丁目8-18), 自己評価作成日 (令和2年7月3日), 評価結果市町村受理日 (令和2年8月26日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

かつて経営者一家が住まいを構えていた地に『グループホーム星の家』を開設してから、丸17年になります。開設当初は、認知症対応型のグループホームがどのようなところなのか、まだ、地域の方々に知られておりませんが、町内の方々はあたたかく受け入れてくださり、恵まれたスタートとなりました。好条件としては、海や山が近く空気がきれいな点、最近の災害マップでも水害や土砂災害の危険区域から外れている点も挙げることができます。今年、新型コロナウイルスの影響により、外出が思うよう出来ず、ご家族様方には面会も控えて頂くなど、思わぬ事態に見舞われましたが、『人格の尊重 楽しみのある生活空間作り 私たちはこの開かれた地域に愛され信頼されるグループホームを目指します』の理念に沿って、今後も、新しい生活スタイルの中で、入居者様やご家族様が笑顔になれるような支援に努めて参りたいと思っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170400881-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和2年8月7日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Empty table box for external evaluation comments.

Table V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します. Columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 with detailed descriptions and evaluation criteria.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、EVホールや休憩室、スタッフデスクから見える場所に掲示し、スタッフ間で共有することで日々のケアの実践に努めている。ミーティングで全員で唱和することも多い。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し事業所として新年会や清掃活動、花壇整備などに参加している。敬老会・クリスマス会には、保育園の園児さんや町内合唱団の方も参加して下さっている。(※2～新型コロナ影響前)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で活動内容を報告したり、避難訓練、盆踊り、敬老会などを通じて地域の方々と触れ合うことで、認知症の方への理解を深めていただけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2か月に1回(年6回)リビングで開催。町内会役員、地域包括職員、入居者様ご家族、入居者様に参加して頂き、行事・活動報告等の他、身体拘束廃止に向けた取り組みについても毎回話し合っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に管理者やケアマネが、市の事業指導担当者、区の保健福祉課・保護課職員、地域包括職員と連絡を取り、各種手続きや事業報告等を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、運営推進会議にて、毎月話し合いの場を設けている。職員は内部研修や、毎月のミーティングでも身体拘束をしないケアへの理解を深め、毎月のミーティングにおいても意見交換を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者会議の講義などで学んだことは、内部研修やミーティングで職員に伝達し、話し合いの場を設けることで虐待防止に取り組んでいる。主に不適切対応(言葉)については毎月振り返り、チーム内で適切な対応に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度については現在利用されている方はいないが、社会福祉協議会による支援を受けている方はいる。成年後見人制度については、ミーティングで学習する機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書、各種同意書等について、入居者様やご家族様に十分な時間をかけて説明を行っており、ご理解ご了承いただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、ご家族様アンケートや運営推進会議の実施等により、ご意見やご要望を管理者や職員に伝えやすいようにしている。入居者様には日常生活の中でご要望など伺う機会を設けている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや、職員面談の中で、職員の意見や要望、提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が、やりがいや向上心を持てるように、経験年数やスキル、個々の努力に応じて給与を支給している。介護職員処遇改善手当の支給も年2回行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修で病態の理解やケアの方法を学習する機会を設けたり、職員の経験年数やスキル、向上意欲等を考慮したうえで、外部の研修や講演にも参加できる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市や区が主催する管理者会議に毎回出席している。区の会議では、各ホームで困っている事や知りたい情報等を議題にし意見交換することで交流を深め、ケアの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報提供書や入居前に訪問して得た情報、見学(面談)に来て頂いた際の情報を、チーム内で共有し、ご本人が困っていることや、不安なことに耳を傾け、安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談時から得た情報はチーム内の職員が共有し、入居後もご家族の心配事や要望に耳を傾け、より良い関係づくりができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時からの、ご本人やご家族の困りごとや不安なことをチーム内で再確認し、必要な支援の優先順位を見極めながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、得意な家事作業をしていただいたり、レクリエーションで一緒に楽しんだり、共に生活する者同士として支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人やご家族の想いを大切にし、時にはご家族に面会に来て頂いたり、電話でお話していただく等、ご家族と職員が共に支え合う関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員同行により馴染みの場に行くことは難しいが、ご家族の協力により、外泊や外出の際に馴染みの人や場所との関係性を継続できるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりの性格や個性を大切にし、一部の方が孤立したり、トラブルが発生したりしないように、職員が介入しながら入居者様同士が支え合えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後入院先に面会に行ったり、ご家族と電話でお話する機会もある。毎年年賀状を送って下さるご家族もいらっしゃり、関係性を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で入居者様の思いや希望を受けとめ、できるだけ一人ひとりが望まれる生活を送ることができるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートや、ご本人やご家族から伺った情報を活用し、今までの暮らし方や環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を観察・見守りし、その日の心身の状態や出来ることと出来ない事を見極め、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスや、朝の申し送り等で話し合いを行っているが、ご本人やご家族の意向を反映して、より良いケアができるように介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や実施したケア内容などを記録した個別の介護ファイルや看護師からの連絡・その他の連絡を記録したノートを基に、チーム内で情報を共有し、話し合いながらケアの実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況を把握したうえで、受診同行、入院時提出書類記入の代筆、買い物、面会者の介助(歩行・排泄)等、柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その日の身体的な影響に気を配りながら、散歩・回覧版届け・買い物等に出掛けたり、盆踊りにも参加させて頂いており、地域資源を活用した豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居時にご本人やご家族と話し合って決めている。月に2回の定期往診の他、臨時的往診もある。急変時はいつでも電話で相談が可能で指示を仰ぐことができ、良好な関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の心身の状況を職員がモレなく看護師に伝達することで、入居者様は適切な看護を受けることができている。看護師は連絡ノートに職員が理解しやすいように記録をしており、情報の共有化が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院の際は適切な治療を受け早期に退院できるよう、主治医の診療情報提供書やホームの介護添書、その他必要な情報を提供している。入院時は、電話や面会で経過の確認をしており、病院関係者との関係維持に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できていることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については、入居時にご本人・ご家族に説明している。主治医の診療体制が昨年度から変更になり、24時間医療行為が必要になった場合には、『看取り』ができないため、ご家族・主治医と相談し、入院先を紹介する事を説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、発生時にスムーズに対応できるようにしている。応急手当等は個別での講習やその都度説明を受け、対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員が1人になる夜間を想定し、避難訓練を年4回町内会の方にも参加して頂き実施している。土砂災害等の危険区域には該当していないが、災害時に備えて自家発電機も備えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様が不快な思いをされずに生活できるように、一人ひとりの人格を尊重した接し方・言葉掛けを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様がご自身の思いや希望を職員に表出しやすいような関係作りに努めている。声掛けの際、職員は声の大きさや表情にも気を配るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人がどのように過ごしたいのかを、その日の体調や気分等に配慮しながら見極め、楽しみのある支援ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	寝起き時の整髪、髭剃り、洋服の汚れの確認等を行い、清潔に気持ち良く過ごして頂けるように支援している。ご自身でお化粧をされる方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間が楽しくなるように、職員は準備の段階から後片付けまで、入居者様の意欲や力量を考慮し、声掛けしながら一緒に作業している。食事中もみんなで作ったことを話題にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考慮した食事の献立、一人ひとりの状態にあった水分の目標値があり、一日を通して必要量が確保できるように支援している。摂取量は記録し、職員間で共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、ご自身でされる方、声掛けでされる方、介助の必要な方に分かれ、入居者様に合わせた支援を行っている。介助に拒否がある場合は、タイミングや介助者を変えて試みることもある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄チェック表を活用している。表情やしぐさを読み取り、失敗を軽減し、気持ち良く過ごして頂けるよう、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に食物繊維の多い物や乳製品を取り入れる事や、集団体操や個別体操を継続的に行う事、水分量の確保等により便秘の予防に取り組んでいるが、主治医に下剤の調整をしていただくこともある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日と時間帯は職員の都合で決まっているが、入浴の順番は決まっておらず、入居者様のご希望や体調を考慮して入浴して頂いている。入浴時は、ゆっくり寛がれるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や状況に応じて、休息して頂いている。夜間は、照明や、室温、音等にも配慮し、安心して休まれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりがどのような薬を内服しているのかを、個人ファイルや個別ノートで病態と共に確認している。服薬介助時はミスを防ぐために、職員2名での袋の印字確認を徹底している。トロミや服薬ゼリーを使用している方もいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる事、好きな事、楽しみ方の把握をし、家事作業等の役割、体操、レクリエーション、楽しみ事(パズル・読書・縫物・塗り絵・切り絵等)を、押し付けることなく支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染による外出自粛前は、ご家族同行による外出や、季節のドライブ・外食・買い物等の外出支援が出来ていたが、最近は玄関前での外気浴や、ホーム建物周りの散歩程度の支援しかできていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大きさを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	2～3千円程度入った個人の財布を金庫に預けている方もいるが、居室に置いている方はいない。職員と一緒に買い物に行く際にお金を持参し、お支払いされることはある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望時は、電話の取り次ぎをし、居室や、職員デスク近くでお話できるよう支援している。お正月に年賀状が届くことがあるが、ご家族が対応されている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様と職員と一緒に作った工作物、習字、塗り絵等を掲示し、季節を感じて頂きながら、穏やかな気持ちで生活できるよう努めている。室温や、湿度、照明、音などにも配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間では、気の合う方同士がお話し易いように、又、孤立する方がいないように席を決めているが、お一人でゆっくり寛がれる方もいる。レクのゲームや歌会、体操、パズルの時等は座席を移動し楽しんで頂くこともある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に早く慣れ、落ち着いた生活ができるように、ご本人やご家族と相談しながら、家具の配置を決めたり、思い出の品や馴染みの物を使用して頂くように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や階段、トイレ、浴室には手すりを設置し、転倒の防止に役立っている。居間や居室では、テーブル、椅子、車椅子、歩行器、ベッド、家具の置き場所等をチームで話し合っ決めて、安全な環境づくりに努めている。		